

謹賀新年

皆様のご健康と
ご多幸をお祈り申し上げます

New Year's Message

土砂の処理は、これまで同様最優先で取り組まなければならぬ課題です。市民の皆さんのご理解のもと、東日本震災前の状態に戻すことができよう取り組んでまいります。

東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の汚染対策、農林業系汚染廃棄物の処理、道路側溝に堆積した土砂の処理は、これまで同様最優先で取り組まなければならぬ課題です。市民の皆さんのご理解のもと、東日本震災前の状態に戻すことができよう取り組んでまいります。

一関市を掲げ、着実にまちづくりを進めてまいります。また、少子高齢化と人口減少は、本市

昨年4月に公民館が生涯学習と地域づくりの拠点の機能を担う市民センターとして生まれ変わり、地域協働体の設立や本年4月から藤沢市民センターの地域協働体による指定管理が始まるなど、地域の特性を生かした協働のまちづくりが進んでいます。また、一関保健センターも4月に開所し、子育て世代へのハード、ソフト両面の支援体制を整えたところとす。

国際リニアコライダー（ILC）の誘致については、国の誘致判断に向けて重要な1年になります。私は、ILCプロジェクトを一関発展の基軸として位置づけ、世界文化遺産「平泉」とILCという2つの世界の財産を次代を担う若者たちへ残していきけるよう、将来を見据えながら、ふるさと一関発展のための取組を進めてまいります。さらにエネルギーに関する施策に重点的に取り組むため、昨年10月に「資源・エネルギー

において課題です。昨年10月に「人口ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。対策を講じなければ平成52年には7万5千人まで減少すると予想される本市の人口を子育て世代への支援などの事業を行うことにより、8万6千人程度、確保しようとするものであり、隣接する自治体と連携しながら、取組を確実に進めてまいります。

多き年になりますことを心から祈念するとともに、総合計画に掲げる各種施策を市民の皆さんと着実に進めてまいります。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

今年、岩手県で46年ぶりとなる国体「希望郷いわて国体」と障がい者スポーツの祭典「希望郷いわて大会」が開催されます。10月には、全国各地から選手をはじめ多くの関係者が本市を訪れます。競技の観戦はもちろん、市民の皆さんには、「笑顔あふれるおもてなし」で大会を盛り上げていただきたいと思っております。



勝部修市長年頭あいさつ 新たな総合計画の着実な実行を 皆さんとともに

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さんには、平成28年の新春を穏やかに迎えることと心よりお慶び申し上げます。また、日頃から市政に対し、ご支援、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

東日本大震災発生から5回目の正月を迎えました。当市では、震災直後から陸前高田市、宮城県気仙沼市に職員を派遣するなど、沿岸被災地への復興支援を続けています。あらためて、人と人がつながることへの感謝やふるさとへの愛着を認識しています。

東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の汚染対策、農林業系汚染廃棄物の処理、道路側溝に堆積した土砂の処理は、これまで同様最優先で取り組まなければならぬ課題です。市民の皆さんのご理解のもと、東日本震災前の状態に戻すことができよう取り組んでまいります。

昨年4月に公民館が生涯学習と地域づくりの拠点の機能を担う市民センターとして生まれ変わり、地域協働体の設立や本年4月から藤沢市民センターの地域協働体による指定管理が始まるなど、地域の特性を生かした協働のまちづくりが進んでいます。また、一関保健センターも4月に開所し、子育て世代へのハード、ソフト両面の支援体制を整えたところとす。

さて、平成17年の市町村合併から10年が経過し、市議会において昨年3月に28年度を初年度とする新たな総合計画基本構想が、12月に総合計画前期基本計画が議決されました。総合計画は、今後10年間の本市が目指すまちづくりの方向性を定めるものであり、市の目指すべき将来像に「みつけよう育てよう 郷土の宝いのち輝く一関」を掲げ、着実にまちづくりを進めてまいります。また、少子高齢化と人口減少は、本市

国際リニアコライダー（ILC）の誘致については、国の誘致判断に向けて重要な1年になります。私は、ILCプロジェクトを一関発展の基軸として位置づけ、世界文化遺産「平泉」とILCという2つの世界の財産を次代を担う若者たちへ残していきけるよう、将来を見据えながら、ふるさと一関発展のための取組を進めてまいります。さらにエネルギーに関する施策に重点的に取り組むため、昨年10月に「資源・エネルギー

多き年になりますことを心から祈念するとともに、総合計画に掲げる各種施策を市民の皆さんと着実に進めてまいります。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

今年、岩手県で46年ぶりとなる国体「希望郷いわて国体」と障がい者スポーツの祭典「希望郷いわて大会」が開催されます。10月には、全国各地から選手をはじめ多くの関係者が本市を訪れます。競技の観戦はもちろん、市民の皆さんには、「笑顔あふれるおもてなし」で大会を盛り上げていただきたいと思っております。



岩手県立千厩高等技術専門校自動車システム科2年

菅原 剛さん

Sugawara Tsuyoshi 20 花泉町金沢



高みを目指し、努力を習慣に 県内で初めて技能五輪に挑戦

「父さん。俺、自動車整備士になろうと思うんだ」

高校卒業後の進路を考えた剛さんは、父・一正さんと同じ道を歩もうと決心した。岩手県立千厩高等技術専門校自動車システム科に進学。2級自動車整備士の国家試験に向け、知識と技術を高めている。放課後、自主的に訓練に励んでいた剛さんに同校の西川秀樹先生が声をかけた。「若年者ものづくり競技大会」の自動車整備部門に出場してみないかーと。

スポーツの世界にオリンピックがあるように、技能者の世界にもさまざまな分野の腕前を競う大会がある。

剛さんは、同大会への出場を決心。昨年は冬休みを返上して訓練を重ねた。特に力を入れたのはエンジンの分解点検。「分解・組立は段取りが大事。作業中の工具の位置や、緩めるボルトの順番一つでタイムが変わります」とポイントを整理する。

6月に県内3校による予選会を突破。7月29日、山形県で開かれた同大会には、剛さんを含む14人が出場した。エンジンの分解点検、電気装置の故障診断など5つの課題で正確さと速さを競った。的確に課題をクリアした剛さんは銀賞に入賞。「組み立てに手間取ったが、苦手な故障診断はうまくできた。先生や仲間のサポートがあったからこそ」と入賞の喜びを振り返る。同校の入賞は初めて。県内でも初の快挙だ。さらに、上位レベルの大会である「技能五輪全国大会」にも出場。自動車工部門としては県内初。12月5、6日の両日に千葉県で開かれた同大会。難度の高い8つの課題に、持てる力をぶつけた。入賞はかなわなかったが、全国レベルの高い技術を体感した。「高めた技術の先には、お客さんの安心がある。ありがとうと言われる仕事をしたい」と抱負を語る。

自動車は最新技術が集積された精密機械。点検、診断、修理には高度な技術が求められる。若者たちの高い技術と意識が、これからの車社会をリードしていく。

Profile

1995年花泉町生まれ。2014年、花泉高卒業後、岩手県立千厩高等技術専門校で自動車整備士を目指す。父をはじめ、二人の兄も技術職。同じ道を選択したことで「家族内の会話が増えた」と笑う。トラブルに強い整備士でありたいと前を向く。



献上田むらの梅
8個入(税込)1,123円など



平成28年
新春を祝う菓子
松榮堂

総本店 / 一関市地主町3-36
千厩店 / 一関市千厩町千厩摩王6-10
本社 / TEL 0191-23-5009 (代)
http://www.shoeidoh.co.jp